

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度検討会議（令和2年度 第4回）

議事要旨

1. 日 時 令和2年12月9日（水） 15:00～17:00

2. 場 所 中央合同庁舎4号館 12階 1208会議室

3. 出席者※敬称略

座長 永田 恭介	筑波大学 学長、一般社団法人国立大学協会 会長
副座長 安宅 和人	慶應義塾大学 環境情報学部 教授、ヤフー株式会社 CSO
安西 祐一郎	独立行政法人日本学術振興会 顧問・学術情報分析センター 所長、AI戦略 実行会議 座長
五十嵐 悠紀	明治大学 総合数理学部 専任准教授
漆 紫穂子	品川女子学院 理事長
大谷 紀子	東京都市大学 メディア情報学部 教授
岡本 和夫	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 参与
北野 宏明	一般社団法人日本経済団体連合会 イノベーション委員会 AI活用戦略TF 主査、株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 代表取締役社長、AI 戦略実行会議 構成員
草野 隆史	株式会社ブレインパッド 代表取締役社長、一般社団法人データサイエンティ スト協会 代表理事、一般社団法人日本ディープラーニング協会 理事
孝忠 大輔	日本電気株式会社 AI・アナリティクス事業部 AI人材育成センター センタ ー長
坂本 真樹	電気通信大学 教授・副学長
杉山 将	理化学研究所 革新知能統合研究センター センター長、東京大学 大学院新領 域創成科学研究科 教授
竹村 彰通	滋賀大学 データサイエンス学部 学部長、研究科長
樺 広計	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 理事、統計数理研究所 所長
長谷山 美紀	北海道大学 大学院情報科学研究院 研究院長
松尾 豊	東京大学 大学院工学系研究科 教授
村田 治	関西学院大学 学長、一般社団法人日本私立大学連盟 副会長
八木 康史	大阪大学 産業科学研究所 教授
山中 竹春	横浜市立大学 大学院データサイエンス研究科 研究科長・医学部 臨床統計学 主任教授、国立がん研究センター東病院 研究企画推進部
ルゾンカ 典子	ソニー銀行株式会社 執行役員
有識者	
下垣 徹	株式会社NTT データ 人事本部 部長
奥園 朋実	株式会社ブレインパッド アナリティクス本部データ活用人材育成サービス部長

4. 議題

- (1) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の制度設計状況について
- (2) 第3回検討会議での議論のポイント
- (3) 企業における人材ニーズ等について※下垣氏プレゼン、奥園氏プレゼン
- (4) 応用基礎レベルの概形について
- (5) 意見交換
- (6) その他

5. 資料

- 資料1-1 文部科学省資料「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」
- 資料1-2 文部科学省資料（非公開資料）
- 資料1-3 文部科学省資料（非公開資料）
- 資料2 事務局資料「第3回検討会議での議論を踏まえた論点について」
- 資料3-1 (株)NTT データ 下垣氏資料「AI 人材について」
- 資料3-2 (株)ブレインパッド 奥園氏資料「BrainPad が提供するデータ活用人材育成の支援事例」
- 資料4 事務局資料「応用基礎レベルの概形について」（一部非公開資料）
- 参考資料1 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度検討会議（令和2年度第1回）議事要旨

6. 議事要旨

- (1) 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の制度設計状況について

文部科学省から資料1-1、1-2、1-3に基づき、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）の検討状況について説明が行われた。申請対象となる教育プログラムに関し「1年以上の実施実績」の条件が明記されていないとの構成員からの指摘を受け、文部科学省は明記する旨を表明した。

- (2) 第3回検討会議での議論のポイント

事務局から資料2に基づき、第3回会合での意見等のまとめ、今後の対応方針案、及び本日の論点について説明が行われた。

- (3) 企業における人材ニーズ等について※企業有識者によるプレゼン

NTT データ下垣氏（資料3-1）、ブレインパッド奥園氏（資料3-2）から、民間企業におけるAI人材の育成に関する取り組みと、企業が求める人材像、応用基礎レベルの認定制度に対する期待について説明が行われた。

(4) 応用基礎レベルの概形について

事務局から資料4に基づき、応用基礎レベルの概形案について説明が行われた。

(5) 意見交換

これまでのご発表を踏まえ、応用基礎レベルのスコープを中心に、全体での意見交換が行われた。

(以下はその中での意見の例)

- 現時点の応用基礎レベルのスコープ案は、データサイエンス教育の要素に偏っているように見受けられるため、AIの要素を充実させなければ望む人材の育成には繋がらない。
- PBLの取り扱いについて、応用基礎レベルでは必須ではないとの意見も出るも、AIによって物事がどのように回っているか学ぶためには認定要件に組み込むべきとの考えも再確認された。
- 応用基礎レベルのスコープに関しては本日いただいた意見を踏まえた事務局修正案を基にメール審議を行うことで合意する。次回の検討会からは認定制度の認定要件を中心に議論を進める。

(6) その他

事務局から今後の予定について説明があった。

以上